

野辺地町子ども読書活動推進実行委員会だより



発行：野辺地町子ども読書活動推進実行委員会
 (野辺地町立図書館内)
 〒039-3131 上北郡野辺地町字野辺地 1-1
 TEL 0175-64-2195



子ども読書活動推進実行委員会は、町全体で子どもの読書活動を推進するため設置されたもので、子どもの読書に深く関わる学校、保育所、読み聞かせ等活動団体、健康増進センター、社会教育委員、教育委員会、図書館等によって組織されています。

今年度、第1回目の会議が6月3日に開催され、今年度の事業計画や「家族ふれあい読書デー」の設定などについて、話し合いを行いました。以下は、本年度の開催事業（青森県教育委員会委託事業）です。事業推進にあたっては、町民皆様のご理解、またご参加をお待ちしています。

● 夏休み上北地方ワクワクおはなし会及び読み聞かせ活動団体等交流会

おはなし会は、上北地方で活動をしている7団体のみなさんが、読み聞かせ、ストーリーテリング（語り）、エプロンシアターなどを行います。（読み聞かせ参加市町村：県、十和田市、おいらせ町、東北町、六戸町、六ヶ所村、野辺地町）

日 時 平成20年7月31日（木） 10:30～11:40
 幼児（3才以上）の部 10:30～11:00 小学生の部 11:10～11:40
 場 所 野辺地町中央公民館1階和室
 参加対象 子どもの他、子どもの読書活動に関心がある方はどなたでも参加できます。
 定 員 60名 申込締切 平成20年7月23日（水） 図書館まで



● ブックトーク研修会

ブックトークは、子ども達に、テーマに沿った様々なジャンルの本を紹介するもので、子どもの読書意欲を高める有効な方法です。このブックトークの知識と技術の習得を目的とし開催します。

日 時 平成20年9月26日（金）14:00～15:30
 場 所 野辺地町立図書館視聴覚室
 講 師 長利 佳代子氏（中泊町ブックトーク活動者、元青森県立図書館協議会委員）
 対 象 学校、図書館、読み聞かせ活動団体、その他子どもの読書活動に関心のある方

● 子どもの読書活動推進講演会&ミニおはなし会

日 時 平成20年11月14日（金）
 10:15～12:00（読書講演会）13:00～14:00（ミニおはなし会）
 場 所 野辺地町中央公民館大ホール・2階和室
 講 師 東京子ども図書館常務理事 荒井 督子氏
 講 演 「楽しい本の世界に誘うために」
 おはなし会 講師及び県内でストーリーテリング（語り・素話）を行っている方による、おはなし会です。この機会にストーリーテリングの楽しさをぜひ、味わってみませんか？
 対 象 学校、幼稚園・保育園（所）、図書館、読み聞かせ活動団体、その他子どもの読書活動に関心のある方



家族ふれあい読書デー



子どもの読書活動を推進するために、基本となるのが家庭です。実行委員会では、子どもだけでなく、家族で読書する機会をもってもらうため、毎月23日を「家族ふれあい読書デー」とすることとしました。23日にしたのは、4月23日が、国が定めた「子ども読書の日」やユネスコが定めた「世界本の日」など本に関わる日であることからです。「家族ふれあい読書デー」には、ぜひ、ご家族で読書を楽しんでみませんか？



家庭で子どもの読書活動を進めるために



町では、野辺地町子ども読書活動推進計画を今年の3月に策定しましたが、家庭で子どもの読書活動を進めるための方策についても記載しています。その一部をご紹介します。

(1) 家庭の役割

子どもが読書習慣を形成していく上で、最も影響力を持つのが家庭です。家庭は、子どもにとって安らぎの場であり、憩いの場です。赤ちゃんや小さな子どもは、自分で本を読むことができなくても、大好きな父母や家族に絵本を読んでもらったり、話しかけてもらうことにより、幸せな時間を築き、本を読む楽しさを知ります。

また、家族で一緒に本を読んだり、家族で感動した本や楽しかった本を紹介し合う、感想を述べ合うなどの読書活動は、子どもが読書に親しみ、本と出会うきっかけを作ります。さらに、親子の絆を深め、親子のコミュニケーションを円滑にします。

家庭での読書活動が、日常的に継続して行われることにより、子どもの読書習慣は、自然と身に付いていきます。家庭は、子どもの読書活動の入り口となります。

(2) 取組内容

● 家読（うちどく）日を設けて、家族で読書タイムを楽しむ

現在、全国的に家読（うちどく）が広がりを見せています。ゲーム・テレビ・ビデオなどを控え、家族で読書を楽しむ日や時間を設けることも大切です。

● 子どもにおはなしを語ったり、絵本を読んでもらう時間をもつ

10分位の短時間でも、寝る前やお膝に抱っこで、家族から絵本を読んでもらったり、昔話などを語ってもらうなどのスキンシップを通し、子どもは幸せに満ちます。父母などの肉声の言葉は、子どもの心に安心感をもたらします。子どもは、家族との幸福の時間をもつことで、読書の喜びを感じ、読書を楽しみ体験として、心に刻んでいきます。

● 毎日短い時間でも読書する時間を持つ

学校における「朝の読書」は、10分位という短い時間にもかかわらず、毎日行うことにより、子どもの読書習慣が形成されています。家庭においては、就寝前などに、ごく短い時間でも楽しい読書の時間を持つことは、家庭での読書習慣が身に付いていきます。

● 親が読書をしている姿を子どもに見せる

子どもは親の背中を見て育つといいます。親が日常的に読書に親しんでいる姿に影響され、子どもも読書は楽しいものだという意識が育ち、自分でも本を手取るようになります。

● 親子で一緒に本を読み、読書に関する共通の話題を楽しむ

親子それぞれの本を読んだり、時には、親子で同じ本を読んで、感動や喜びを分かちあう、本の紹介をし合うなどは、本に親しみ、本に出会うきっかけとなり、さらに、親子の触れ合いやコミュニケーションを深めます。

● 家族で、おはなし会や読み聞かせの行事に参加する

家庭で絵本などを読んでもらえない時などは、図書館などで行っている、おはなし会などを利用することも有効です。本を楽しみ、本に出会うきっかけになります。

● 図書館利用のすすめ

図書館には多様なジャンルの豊富な図書が備わっています。それぞれの子どもが、興味を持つ本との出会いも期待できます。小さい頃から家族と一緒に図書館を利用することにより、子どもの生活の中に、図書館利用が根付き、本を読んだり、本で調べたりする習慣が身に付いていきます。

